

改題 土楽たより

どうらく

Kogure 農場 9月号 (NO77)

2016年9月10日 (土) 発行 (毎月10日)

【農暦】台風が続き、天気がいっこうに落ち着かない!

○今日(4日)は夏の青空に夏の雲がある。蒸し暑さが続いている。突然に暗くなったと思うと雨である。亜熱帯を思わせるスコールの雨である。台風12号(ナムセーウン*注)が九州長崎へ上陸の予報である。天気がいっこうに落ち着かない。9号(東海・関東)、11号(北海道)、10号(東北・北海道)と連続してきており、堤防決壊などで人命を奪う災害をもたらしている。何となく落ち着かない鬱陶しい日が続いている。台風9号が過ぎた後に笠間に戻ると家の前の木が倒されていた。玄関への入り口を塞いでいた。幸いにも家と反対側へ倒れたので家屋の被害がなかった。翌日(22日)に切断し撤去した。畑の野菜も倒れたりして荒れていた。草だけは弱った様子はなく繁茂力の衰えは見えない。前の週に蒔いた大根は一部の土を流されていたが頑張っていた。白菜を植える畝を耕起し石灰を入れ段取りしたが、台風やら雑事などでそのままにしてしまった。時期遅れもあり、どうするか迷っている。収穫期を迎えた稲田を見ると農家の心配が容易に想像される。

○昨夜(4日)のテレビで“巨大危機(mega crisis)・異常気象との闘い”をやっていた。気になっていたのを見た。北極圏の永久凍土が融け始めメタンが大気放出を始めているという。二酸化炭素の26倍?の温暖化に影響を与えるという。アラスカの凍土を日本の学者が調査していた。北極圏の氷河が融けると太陽熱の反射放出が減少し温暖化を加速する話があるが、それにメタンが加わると今世紀末?には気温が4度C上昇するという。気象記録開始以来というが、東北・北海道に上陸した台風10号が岩手・岩泉町の惨禍、北海道・南富良野の堤防決壊をもたらした。地震・異常気象は日常化して来ている中であって、地球温暖化対策が最優先の課題だと改めて思った。

○最近雑事が多く揉め事も加わる。気力と体力の落ちた身には応える。繁茂した草を見るだけで気力が削がれるような感じがする位である。入口だけでも草払機で除草に努めている。草払機を使いながら、これからの畑や除草など農作業のことを考えてしまう。体力と割ける時間などを考え、畑の計画、家の周囲の除草などのことを抜本的に見直したいと思っている。今年もいろいろ考えての結果であるが、黒豆、小豆、カボチャなどの畑



<マイクロトマト>コップに挿されたトマト。8日過ぎても元気。2日撮影

はIさんの援農が寄与していることが多いが、管理ができています。ただ天候不順？でか豆類の花の付きが悪いように見え心配している。

***注；台風の名前；**ネットで台風情報を見ていたら12号にはナムセーウン（ラオスの川の名）と台風名がカッコ書きされていた。9号はミンドウル（たんぼぼ・北朝鮮）、10号はライオンロック（山の名・香港）11号はコンパス（コンパス座・日本）と名がついている。台風には従来、米国が英語名（人名）を付けていましたが、北西太平洋または南シナ海で発生する台風防災に関する各国の政府間組織である台風委員会（日本ほか14カ国等が加盟）は、平成12年（2000年）から、北西太平洋または南シナ海の領域で発生する台風には同領域内で用いられている固有の名前（加盟国などが提案した名前）を付けることになった。140の名前が登録されており、順番に名付ける。台風の年間発生数の平均値は25.6個ですので、おおむね5年間で台風の名前が一巡することになる。という。16年も経っているが初めて知った。



＜台風で倒木＞入口を塞ぐ。この位で済んで安堵。24日撮影

【楽農】とにかく除草！

＜畑A＞；大根の播種、菊の支え、トマト、茄子、ピーマンなど収穫。草払機などで隣地の葛、周辺も除草。

＜ハウス＞；トマト、パプリカの収穫、除草。

＜畑B＞；、落花生、黒豆、小豆の除草。薩摩芋の蔓返し。カボチャの収穫。トラクター、草払い機で除草。



＜台風9号で荒れた畑＞左から大根、ネギ、トマト。24日撮影

【楽市】イベント交流・直売など

○その他；笠吟連の大会（21日）魅力発信隊総会（24日）共生つばさの会（1日）に参加など。

【つぶやき=Tweet】季節に色があり、年齢に季節がある！

○“脳の賞味期限”というエッセイを読んだ。人工知能の開発者（黒川伊保子）が書いたものである。“人の脳のピークは28歳まで、28歳を超えると老化が始まり、30を超えると明らかに機能低下した細胞や神経線維が認められるようになる。しかし、脳を装置として見立てると、賞味期限は50年以上も後ろに延びる。人生最初の28年間は著しく入力装置と言えるのだ。12歳までは、子ども脳の記憶力＝感性記憶力の最盛期。12歳から14歳までは子ども脳からおとな脳へ移行期に当たり、脳はやや混乱を見せるが、それが落ち着く15歳から28歳までは単純記憶力の最盛期に当たる。28年間は「新しいことをどんどん脳に書き込む時期」である。28歳から56歳までは、脳は回路の優先順位を付け

ていき、「とっさに本質がつかめる、センスのいい脳」に変わっていく、56歳になると、脳は出力性能を最大にして、人生で最も『頭のいい時期』になる。深遠な文化を心から味わえるようになる。ヒトは最初の50年を生殖のために、次の50年を人間として生きるために使っているように見える。脳の本番は50代から始まるのである。脳の賞味期限は意外に長い。”気になった文言を書き出し繋いだので、単純な引用ではないが、これが、おおよその梗概である。長い時間をかけて入力した膨大なデータを使わないのではもったいない。賞味どきはこれからののだと云われると、やらねばとの思いも湧くような気もする。



<超特大スイカ>種苗店で。
新種は何処まで？ 2日撮影

- 五木寛之の本で「生きるヒント」がある。青春から朱夏へ、自分の人生のステージが変わるとき、心強い指針を与えてくれた本がある。とあった。朱夏と人生がつながらなかったの
で調べてみると、春夏秋冬には色がある。青春、朱夏、白秋、玄冬と言う。さらに年齢にも季節があるという。青春は16歳から30歳前半と言われており、16歳以下は、季節と色がない。青春は、少し長い感じがする。青春は学生時代という人いる。30代前半から50代前半が朱夏（しゅか）と言われる。朱夏が一番長い時期と言える。子育ての時期でもある。もっとも忙しく大変な時期である。なんとなく朱夏って感じがする。次に、50代前半から60代前半が白秋（はくしゅう）になる。いろいろと経験を積んで落ち着いてくることになる。ピークを終えて、経験を次世代に残していく時期なれば、なんとなく白秋って感じがする。最後に、60代前半以降は玄冬（げんとう）で、人生の最期の時期である。次世代に物事をたくし退いていく年代と言われる。黒のイメージがあまりよくないと思うが、熟達した職人を玄人（くろうと）という。年齢と季節を重ねて考えることができる。今では、平均寿命が伸びてきているので、とらえ方も違ってくると思うが、自分の季節について考えてみると反省ばかりが残ってしまう。脳の賞味期限と併せ考えると更に反省の思いが深くなる。

- 先日の深夜テレビで100歳を超えて講演する、むのたけじさんを見た。多くの名言を残されている。人生の時期の関連では「種をまかなければ芽をみることができないように、青年期をしなびさせると豊かな壮年にはなれない。壮年期を充実させないと、実りをもった老人にはなれない。」と云われている。反戦ジャーナリストを貫いた人である。101歳で先月亡くなられた。永六輔、大橋巨泉が亡くなられた。何か寂しい。脳の本番は50代から始まるという。やるべきことが多いと思えてくる。

【後記】もうすぐ彼岸、笠間に、kogure農場
にお越し下さい。HPに転載しています。

【特に編集せずランダムな構成にします】

発行者；Kogure農場・小暮虎雄

住所；笠間市本戸4201-10

携帯電話；090-9333-4135

メール；torao-k@nifty.com

HP；<http://homepage3.nifty.com/toragigi/>